

川崎市小学校情報教育研究会

第1回 授業研究会



KAWASAKI CITY



3 年 国 語 科 「 ロ ー マ 字 」

授業者 川崎市立下平間小学校 中田 優夏 教諭

講師 川崎市総合教育センター

情報・視聴覚センター 樋口 彰 指導主事

13:15 受付	13:30 授業開始 3年3組教室	14:15 移動	14:30 全体会 図書室	15:40 研究討議 図書室	16:05 指導講評
-------------	-------------------------	-------------	---------------------	----------------------	---------------

第3学年 国語科学習指導案

指導者 川崎市立下平間小学校 中田 優夏

1. 日時・場所 平成23年7月6日(水)5校時13:30～
川崎市立下平間小学校 3年3組教室
2. 単元名 ローマ字
3. 単元目標
 - ・日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。
4. 指導事項 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
ウ 文字に関する事項
(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

5. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・ローマ字の学習に興味をもち、すすんで読んだり書いたりしようとしている。	・簡単な単語についてローマ字を読んだり、ローマ字で書いたりしている。(1)ウ(ア)

6. 単元について

(1) 児童の実態とめざす子どもの姿について

① 児童の実態

支援級児童を含め32名のクラスである。国語の時間は31名で学習をしている。読み書きへの関心は比較的高く、文字や言語に興味を持ち取り組んでいる。普段から、文字の形に気を付けながら丁寧に練習する姿が見られ、わからない文字は辞書をひいたり、漢字ドリルや教科書を見て調べたりしている。

英語の学習で、ゲームなどを通してアルファベットの発音を練習してきたので、A、B、C、D…などは、よく耳にしている。また、グループ分けのときなどに、「Aグループ」「Bグループ」として、身近なところでもアルファベットはよく使われ、子どもたちに受け入れられている。社会科の学習で、町探検をしながらローマ字で書かれている看板を何気なく見たりマンションのポストに書かれたローマ字を目にしたたりすることも多い。

このように子どもたちは、身近な生活場面でローマ字を多く目にしている。しかし、ローマ字表記の便利さや合理性については意識していないようである。なお、キーボード等によるローマ字入力を経験し、すでにローマ字を使える子どもも数名いる。

② めざす子どもの姿

本教材では、訓令式のローマ字表記で簡単な語や語句を読んだり書いたりできるようになることを目指している。しかし、身近にあるものを見つけていく中で、社会で広く使われているヘボン式にも意識を広げるようにしたい。そして、公共施設などでは、多くの人が利用できるように、漢字やひらがな、ローマ字だけではなく、さまざまな文字が使われていることにも気づかせたい。

教育の情報化が進み、課題を解決するためにコンピュータを活用する機会が増えてきた。一方で、検索のために文字を入力したり、発表のために記事をまとめたりするときに、文字入力のに速さに個人差があり、本時のねらいが達成できなかったという話も聞く。そこで、高学年・中学生となったときにスムーズに文字入力ができるようになることが大切である。そのためには、タイピングにおける指のホームポジションにもふれ、それを使うことで、早く正確に文字を入力できる便利さに気づくようになればと願っている。また、一人一人の能力や特性に応じ、伸ばす音がローマ字記入とタイピングでは違うことなどにも気づかせたい。そして、どの子どもも抵抗なくローマ字入力に取り組める素地を育てていきたい。

この単元を機に、今後のキーボード操作を伴う学習活動では、文字入力に時間をとられることなく、子どもたちが学習本来のねらいを達成できるようにしていきたい。

(2) 単元設定の理由

駅や町の中など、子ども達の身の回りには、たくさんのローマ字が使われている。生活場面で、地名表記などのさまざまなローマ字を読めるようになることの喜びは大きい。漢字は読めなくても、ローマ字が付いていれば、読み方がわかるのである。

ただし、自分で書く機会はほとんどないであろう。そのため、この単元ではローマ字をしっかり練習し、読んだり書いたりできるようにしたい。紙に書く筆記練習だけではなく、コンピュータも効果的に使い練習させたい。

コンピュータでのローマ字入力に関しては、慣れることが大事なので、繰り返し継続的に行うことが大切である。その際には、教科書のローマ字表だけではなくコンピュータを使って、入力の練習を楽しんで行うようにしたい。そして、子ども達が情報機器を活用する機会を設けることで、指導の効果を高めたい。

また、子ども達がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しむためにも、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作を身に付けるようにさせたい。

これが、情報活用能力のひとつとなり、子どもたちが今後、社会の様々な変化に主体的に対応できるための基礎・基本の一助となると考えている。

7. 研究テーマとの関わり

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

ーメディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力ー

○ 学習指導要領におけるローマ字

今年度から全面実施となった学習指導要領には、以下のように記載されている。

(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

「日常使われている簡単な単語」とは、地名や人名などの固有名詞を含めた、児童が日常目にする簡単な単語のことである。

(小学校学習指導要領 国語編 第3章 各学年の目標と内容 より)

したがって、私たちは、国語科の学習として、これまで通り、子どもたちがローマ字を読むこと、そして書くことを確実に身につけられるようにしなければいけない。そして、私たち情報教育研究会では、これからの社会を担う子どもたちには、情報教育のねらいもってローマ字を指導していく必要があると考えている。

○ ローマ字学習の情報教育的意義

ローマ字の学習は、これまで4年生で取り扱われてきた。しかし、ここ数年、コンピュータの活用が急速に広まり、ローマ字を使用して文字入力を行うことが一般的になってきている。つまり、子どもたちがローマ字を学習することに、より身近な必然性が生まれてきたのである。

学習指導要領の改訂で、ローマ字の学習を3年生で取り扱うことになった。これは、3年生から始まる総合的な学習の時間や各教科で、子どもたちがコンピュータを活用して学習活動に取り組む場面が想定されるためである。つまり、これまでの子どもたちが学習してきた、ローマ字を「読む」「書く」のほかに、「(キーボードで)打つ」という力が求められてきているといえるだろう。

今回の授業研究会を迎えるにあたり、私たちは「子どもたちが情報を収集、加工、そして発信などするための第1歩」と位置づけることにした。きっと、子どもたちは小学校を卒業するまでの間に、コンピュータから文字を入力する場面に出会うはずである。そのときに、この授業が重要な意味をもつことを願っている。

○ ローマ字と情報活用能力

今の時点で子どもたちが学校や自宅などの環境で使いやすいのはローマ字入力である。しかし、数年後には入力方法は変わってしまうかもしれない。ただ、入力方法が変わろうとも、子どもたちが小学校で身につけた情報活用能力は普遍的なものである。

私たちの研究のねらいは、あくまでも子どもたちに情報活用能力を育てることであり、決してローマ字入力のスキルではない。しかし、ローマ字を活用して、情報を集めたり、編集したり、発表したりすることは、必ずや子どもたちの情報活用能力を高めてくれると考えている。だからこそ、基礎となるローマ字の学習を大切にしていきたい。

8. 学習指導計画(5時間/本時7時間目)

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 【 】評価	使用する ICT 及びねらい
1	1	ローマ字の表し方を知ろう。 ・身の回りのいろいろなところで使われているローマ字を見つける。 ・ローマ字表から、行と段による読み方を知り、五十音を声に出して読む練習をする。	・言葉の表記の国際的な広がりを感じることができるよう写真を提示する。 ・五十音をひとつおき読めるようにするために、一つ一つのアルファベットについて全員で確認する。混乱を避けるために訓令式にしぼって読む練習をする。 【関】ローマ字の学習に興味をもち、探したり、読んで練習したりしている。	○50 インチ TV ○教材提示装置 児童が普段目に見ていると思われるローマ字を提示し、ローマ字の学習に興味をもつ。
2	2	ローマ字の書き方を練習しよう。 ・「ローマ字表」を見ながら、五十音の書き方を練習する。 ・ローマ字で日本語を書き表すときの特別なきまりを確認する。	・五十音順にひとつおき書けるようにするために、母音から一つ一つのアルファベットについて「ローマ字表」を見ながら練習するように声かけする。 ・特別な表記(濁音、半濁音・長音「^」・つまる音・人名の姓・名や地名の書き表し方・つなぎの記号「-」「'」など)は必要に応じて確認する。 【言】ローマ字の学習に興味をもち、読んだり書いたりしようとしている。	
	3	ローマ字の書き方を練習しよう。 ・ローマ字には、書き方が二つあることを、125 ページの表で確かめる。	・1時間目に提示したローマ字に注目し、ローマ字には訓令式のほかに、ヘボン式の書き方があることで、ローマ字の学習を深めることができるようにする。 【言】ローマ字の学習に興味をもち、読んだり書いたりしようとしている。	○50 インチ TV ○教材提示装置
	4	ローマ字の書き方を練習しよう。	・学習した特別な書き表し方について書いたり声に出して読	

		<ul style="list-style-type: none"> ・特別な書き表し方を練習する。 ・自分の名前や学校名をローマ字で書く。 	<p>んだりして、理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前や学校名をローマ字で書いて名刺作りを通して、大文字や小文字の使い方を理解できるようにする。 <p>【言】ローマ字の学習に興味をもち、読んだり書いたりしようとしている。</p>	
3	⑤ 本時	<p>ローマ字を使ってしりとりをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループで紙にローマ字を書いてしりとりをする。 ・書いたカードを全員で読む。 ・ローマ字入力で画像検索を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字を書いたら、グループ全員で読んで確かめてから、次の人へつなげるように声かけする。 ・発表者がキーボード入力をする際に、全員でキーボード下敷きに手を置きながら、一緒に練習できるようにする。 <p>【関・言】簡単な単語でローマ字しりとりをしながら、ローマ字を書いたり、読んだりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータ ○50インチTV (2台) ○教材提示装置 <p>ローマ字入力ができるとコンピュータを便利に使えるようになることを感じている。</p>
4	6	<p>パソコン室でローマ字を探してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーボードを見て気づいたことや発見したことを、ローマ字探しゲームを通して発表し合う。 ・キーボードについて詳しく知る。 ・キーボードを使ってローマ字入力の練習をさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードを扱う際に、ホームポジションについて、簡単にふれる。 ・理解することが難しい子どもには個別支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータ <p>キーボードに興味をもち、楽しんでローマ字入力を練習している。</p>
	7	<p>キーボード入力を練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーボードを使ってローマ字入力の練習をさせる。 ・キーボードで自分の名前と学校名を入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長音はコンピュータ入力とローマ字表記では違うことを知らせる。 ・改行「Enter」や文字消去「Back Space」の方法についてあらかじめ説明しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータ <p>コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作をしている。</p>

9. 本時の指導（本時5／7）

① 目標 簡単な単語でローマ字しりとりをしながら、ローマ字を書いたり、読んだりしている。

② 展開

学習活動	・指導上の留意点 【評価】(評価方法)
<p>1. 本時の活動の内容を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ローマ字を使ってしりとりをしよう。</div> <p>・「ika」の次は「a」か「ka」で始まる言葉を考えればいいんだね。</p> <p>2. 3～4人のグループになり、今まで勉強したローマ字を使ってしりとりをする。</p> <p>3. できあがったしりとりカードをクラス全員で読む。</p> <p>4. ローマ字入力で画像検索を体験する。 ・絵がたくさん出てきておもしろいね。</p> <p>5. 今日の振り返りをする。 ・みんなが書いたローマ字をたくさん読めたよ。 ・ローマ字を覚えると、コンピュータも使えるんだね。 ・もっとローマ字を覚えたいな。</p>	<p>・ローマ字を書くときは、訓令式でもへボン式でもいいことやローマ字表を見て書いてもいいことを伝える。</p> <p>・ローマ字の終わりの一文字か二文字を使ってしりとりを書くように説明する。 【例】 i[ka]→[k]ara[su]→[s]uika kaer[u]→[u]sagi→</p> <p>・しりとりカードが書けたら、グループ全員で読んでから、次のカードを作成するように声かけする。 【関・言】簡単な単語を使ってローマ字しりとりをし、ローマ字を書いている。(カード)</p> <p>・作ったカードを教材提示装置を使ってTVに映す。 【関・言】ローマ字で書かれた簡単な単語を読んでいる。(行動)</p> <p>・50インチTVを2台使用し、1台はコンピュータの画面、もう1台はキーボード入力をしている発表者の手元を教材提示装置で拡大して映す。 ・発表者以外はキーボード下敷きに手を置き、文字を共有しながら練習できるようにする。 ・改行や文字消去など、文字入力以外のキーボードの操作や検索は教師が支援する。</p> <p>・次の時間はパソコン室に行くことを伝え、活動の期待がふくらむようにする。</p>

【教室での情報機器配置図】

